	種 別	名称・員数	所有者等	説明
1	重要文化財(工芸品)	くろうるしぬりくろいと 黒漆塗黒糸 おどしひしと じおけがわ 威菱級桶側 にまいどう ぐそそく 1 領	(一財) 林原美術館 [岡山市北区丸の内]	池田家に伝わった江戸時代前期の甲冑 池田家伝来の甲冑で、池田家伝来の甲冑で、池田伝表に類の所用と伝えらりの所用と伝えらい。 寛永以降の様式を見られる。 大田の野にが出て、 1609-1682)の時代に製作されたと考えられる。 機能性を重視して表がとされたと考れるの形とを重視して表がとないである。 機能性を重視して表など全体にである。 大田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・
2	重要文化財(建造物)	吉 かたりでん かう でん から か でん か でん か でん か でん か でん か でん か で	(宗)吉備津彦神社 [岡山市北区一宮]	昭和初期の大規模社殿 一部では、

3	史跡	最初やまごがなが 緑山古墳群 6号墳・7号 墳・8号墳 3基	個人 [総社市上林]	吉備中枢地域における首長墓群の形成過程の 一端を示す古墳群 緑山古墳群は三須丘陵の北西、緑山 一帯に分布する古墳群で、6・7・8 号墳は横穴式石室を埋葬施設とする。 古墳群中、石室・墳丘共に比較的規模
				が大きく、6世紀中葉から後半の間に 6号墳、7号墳、8号墳の順に築かれ たと考えられる。8号墳の石室規模は 全長15.2mと群中最大である。8 号墳は本古墳群の南東約1.3㎞にあ る県下第1位の規模の横穴式石室(全 長19.9m)を有するこうもり塚古
				墳に直接首長系譜が繋がる可能性があり、吉備の中枢地域における首長墓群 の形成過程を研究する上で欠かせない 遺跡である。
4	名 勝	龍城院庭園	(宗)龍城院 [浅口市寄島町]	江戸時代の庭園文化や築造技術を伝える庭園 龍城院本堂の北側背後に位置する 池東麓観式の庭園。 龍城院は寛文6(1666)年に現 在の地に定められたが、本堂は元禄2 (1689)年及び宝暦9(1759) 年に、庫裏は安永4(1775)年に 連裏は安永4(1775)年に 再建された。 東は安永4(1775)年に 野にい、地であり、年及び監査の再建・ 整備に伴い、現在の形に整えられたと 考えられたい、現在の形に整えられたと 考えられたい、現在の形に整えられたられる。 東地しているの形にと 大きないといる。 東地しているの形にと 大きないる。 東地しているの形にと 大きないる。 東地しているの形にと 大きないる。 東地しているの形にと 大きないる。 東地しているのの庭園 文化及び築造技術を考える上で重要で ある。
5	名勝	夫婦岩	国司神社 [高梁市成羽町]	断崖に屹立する二つの巨岩 成羽川を見下ろす標高約400mの 断崖上に屹立する巨岩で、東西並立 つ姿を夫と子を抱く妻に見立てて、夫婦と子を抱く妻に見立ての典 婦岩と呼んでいる。東(台地)側の妻岩が高さ約12m、西(谷)側の妻岩が高さ約16mを測る。 吉備高原の隆起と節理に富んだ石灰岩の風化と侵食を示す自然の貴重な大な眺望景観を形成し、鑑賞上の価値は特段に高い。

※県指定文化財件数 既指定数 5 0 7 件 今回指定 5 件 <u>指定合計数 5 1 2 件</u>



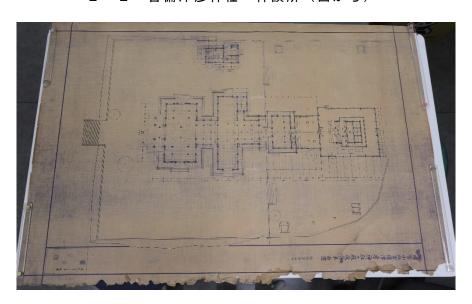
1 黒漆塗黒糸威菱綴桶側二枚胴具足 [林原美術館所蔵] (林原美術館提供)



2-1 吉備津彦神社 祭文殿・拝殿ほか(北から)



2-2 吉備津彦神社 神饌所 (西から)



2-3 吉備津彦神社 設計図



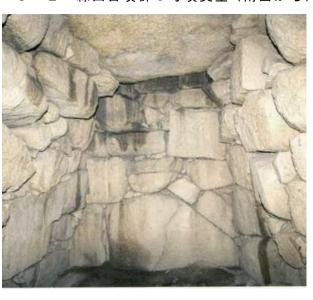
3 - 1 緑山古墳群 6 号墳(南西から)



3-2 緑山古墳群6号墳奥壁(南西から)



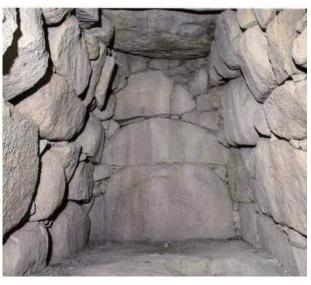
3-3 緑山古墳群7号墳(南西から)



3-4 緑山古墳群7号墳奥壁(南西から)



3-5 緑山古墳群8号墳(南西から)



3-6 緑山古墳群8号墳奥壁(南西から)

(3-1・3・5 総社市観光プロジェクト課提供)



4-1 龍城院庭園全景(北から)



4-2 龍城院庭園 枯滝(東から)



5-1 夫婦岩全景(東から) (高梁市教育委員会提供)



5-2 夫婦岩全景(南から)

- 1 種 別 重要文化財(工芸品)
- 2 名称及び員数 黒漆塗黒糸威菱綴桶側二枚胴具足 1領
- 3 所 在 地 岡山市北区丸の内2-7-15
- 4 所 有 者 (一財)林原美術館
- 5 製作年代江戸時代前期(17世紀)
- 6 説 明

本甲冑は、日本甲冑の諸形式のうち、安土桃山時代に成立する当世具足である。 造形上の大きな特徴として全体を黒色の意匠で統一していることが挙げられる。 鉄や革の部材は黒漆塗とし、威毛に黒糸、金物に赤銅、家地に黒繻子を用いる。 鬼は頭形兜。漆下地で全体を平滑にして、正面に鎬を立て、眉形を飾る。眉庇の刳り込みは浅い。前立は欠失する。 鞠は日根野鞠で吹返はない。

胴は横矧桶側二枚胴。横長の板札を菱綴し、胸板と脇板を毛引威で繋ぐ。胴内面は黒革貼り。肩の小鰭は威小鰭。胸部の両乳鐶と背面の総角付鐶には揚羽蝶紋を飾る。背面には総角を結ぶ。胴下端の両側と背面中央を大きく刳り込む。肩上と押付板の接合部を補強する三日月板を有する。草摺は七間で、腰革付にして胴下端に取り付ける。籠手は瓢籠手。手甲には切鉄で揚羽蝶紋を飾る。佩楯は伊予佩楯。臑当は五本篠臑当である。

袖には、大袖を備える。七段下がりの礼板の上部三段を、鉄小札と革小札の鉄交ぜとする。小札の形状及び上部三段に逆三角形に鉄の小札が入る鉄交ぜの状況から、来歴は不明であるものの、室町時代後期(16世紀)頃に作られた大鎧に付属していた大袖と考えられる。

本甲冑は、岡山藩主池田家旧蔵品で、附属する具足櫃の貼紙に「輝政公御召」とあり、明治時代に作られた池田家の什物台帳『調度記』(岡山大学附属図書館池田家文庫蔵)にも「輝政公御召領」と記載され、池田輝政(1564-1613)の所用と伝えられてきた。しかしながら、三日月板が付く点、胴下端の刳り込みが深い点、装飾の意匠に家紋を用いる点などの特徴から、実際の製作年代は17世紀中葉と推定できる。製作推定時期から推察するならば、輝政の孫である池田光政(1609-82)が製作に関与したのではないかと考えられる。当時の武家社会では先祖顕彰の動きが広がっており、本甲冑も、先祖顕彰のために製作された可能性がある。

本甲冑は、機能性を重視して装飾性を抑えつつ、漆塗や金物の彫金など全体の 仕立ては上質である。要所に池田家の家紋の揚羽蝶紋を飾り、また室町時代後期 の大袖を流用して武家としての歴史と権威を示しており、大名藩主に相応しい甲 冑と評価できる。江戸時代前期に遡る大名藩主クラスの甲冑は全国的にも例が少なく、美術工芸品及び歴史資料としての価値は極めて高い。

[2]

- 1 種 別 重要文化財(建造物)
- 2 名称及び員数 吉備津彦神社 渡殿・釣殿・祭文殿・軒廊・拝殿・神饌所 6 棟 附 設計図 2 3 枚
- 3 所 在 地 岡山市北区一宮1043
- 4 所 有 者 (宗) 吉備津彦神社
- 5 年 代 昭和11(1936)年
- 6 説 明

吉備津彦神社は、備前国と備中国の境界をなす吉備中山の北東麓に所在する。 主祭神は大吉備津彦命で、備前国一宮として重んじられ、近世には岡山藩主の崇敬を受けた。近代の社格制度では初め県社であったが、昭和3(1928)年に 国幣小社に昇格している。

元禄10(1697)年に岡山藩主池田綱政が再建した当時の建築として、本殿(県指定重要文化財)、中門(市指定重要文化財)、随神門(同)が現存するが、渡殿・祭文殿・拝殿等は昭和5(1930)年の火災で焼失し、翌年再建に着手、11(1936)年に竣成したものである。昭和7年から9年に作成された社殿設計図に「角南」「齋藤」「山内」「上田」の押印があり、旧内務省神社局の角南隆、齋藤常之、山内泰明、上田萬次郎が設計に携わったことが分かる。

渡殿・釣殿・祭文殿・軒廊・拝殿は本殿正面の軸線上に並び配され、釣殿から 拝殿は、縁より下を主として石造とする。建物相互を接続することによって機能 性を高めるとともに、各社殿の屋根が連なりながら変化を見せ豊かな社頭景観を つくっている。これらの社殿は本殿に向かって徐々に床面を上げ、渡殿の奥1間 はさらに一段高めるという巧みな配置計画をもち、各社殿の神聖度に応じた意匠 及び形式が表現されている。

渡殿は、木造平屋建、入母屋造で、桁行5間、梁間3間の規模である。亀腹上に腰組付き縁、組高欄を廻し、壁面は正面中央と側面前1間に両開き板戸、他は「おうちゃってる。組物は二手先、中備え蓑東、蛇腹支輪を入れ、軒は二軒繁垂木とし、本殿の意匠に準じる。祭文殿は、木造平屋建、切妻造で、桁行9間、梁間3間の規模である。亀腹の上方に鉄筋コンクリート製の片持ち梁を設け、縁及び組高欄を廻す。壁面は腰長押より上に連子窓を配し、側面中央間には明り障子付きの諸折両開き桟唐戸を立てる。組物は飛行下木のみで、軒は二軒葉垂木である。拝殿は、木造平屋建、入母屋造で、桁行7間、梁間3間、向拝3間の規模である。「たたどようるなまたである。」をは、木造平屋建、入母屋造で、桁行7間、梁間3間、向拝3間の規模である。「塩正積基壇の上に建ち、組高欄を廻す。壁面は腰長押より上部を引き違いの明り障子とし、正面3間と側面中央間に諸折両開き板戸を立てる。組物は平差半で中

央間のみ中備え 蟇股を入れ、軒は二軒疎垂木である。天井は中央部を折上格天井とする。渡殿と祭文殿をつなぐ釣殿、祭文殿と拝殿をつなぐ軒廊も木造平屋建で壇正積基壇の上に建ち、軒は二軒疎垂木である。神饌所は、祭文殿南に位置し、正面に1間の向拝を設ける。木造平屋建、入母屋造で、桁行4間半、梁間2間半の規模である。壁面は腰長押より上に連子窓を配し、正面及び側面に明り障子付きの両開き桟唐戸を立てる。組物は舟肘木のみで、一軒疎垂木の簡素な意匠とする。以上の社殿の屋根はすべて当初檜皮葺であったが、昭和50年代に銅板葺に改変されている。

これらの社殿は、旧内務省神社局が造営に関与した昭和初期の大規模社殿として県内に例を見ないものであり、良好な状態を保ち現存する点は貴重である。和様を中心に古式を重視した造りであるが、鳳凰を模した木鼻や複雑な文様の虹梁彫刻、拝殿の一部の柱を吹寄せとするなど、各所に大胆な近代的デザインが認められる。また、祭文殿・軒廊・拝殿の内部を石敷の土間形式として立礼に対応し、一部に鉄筋コンクリートを使用するなどの点も、近代的な特徴をよく示している。設計者の一人角南隆(1887-1980)は倉敷市児島の出身である。角南は、吉野神宮(昭和7年改築)、橿原神宮(昭和14年再整備)、近江神宮(昭和15年創建)等、戦前に全国で実施された官国幣社の整備に多く携わるなど、近代の神社建築史上重要な役割を果たしており、本件もその作例としても高い価値を有する。

吉備津彦神社 設計図一覧

路指定 番号		図面表記	種別	縮尺	作成日	田	図	特記事項
-	国幣小社	吉備津彦神社社殿復旧平面図	里	1/100	昭和7年12月	角南・上田・齊藤・山内	1160 × 800	
2	国幣小社	古備津彦神社渡殿復旧設計図 正面	中立	1/20	昭和8年2月	角南・上田・齊藤・山内	768×1070	
3	国幣小社	古備津彦神社渡殿復旧設計図 平面	里士	1/20	昭和8年2月	角南・上田・齊藤・山内	804×1064	
4	国幣小社	古備津彦神社渡殿復旧設計図 側面	中立	1/20	昭和8年2月	角南・上田・齊藤・山内	765 × 1065	
2	国幣小社	古備津彦神社渡殿復旧設計図 縦断面	縦断	1/20	昭和8年2月	角南・山内 (判読難)	766×1068	
9	国幣小社	古備津彦神社渡殿復旧設計図 横断面	横断	1/20	昭和8年2月	角南・上田・齊藤・山内	763×1070	
7	国幣小社	古備津彦神社渡殿復旧設計図 床伏及天井見上	国	1/20	昭和8年2月	角南・上田・齊藤・山内	800 × 1065	2分割図
∞	国幣小社	古備津彦神社渡殿復旧設計図 祭文殿縱断	縦断	1/20	昭和9年6月	(判読不能)	803×1717	
6	国幣小社	古備津彦神社渡殿復旧設計図 祭文殿側面横断	立面・横断	1/20	昭和9年6月	(判読不能)	801×1716	2種
10	国幣小社	古備津彦神社渡殿復旧設計図 祭文殿 釣殿 背面	中立	1/20	昭和9年6月	(判読不能)	802 × 1706	
=	国幣小社	古備津彦神社渡殿復旧設計図 釣殿、軒廊 横断	横断	1/20	昭和9年6月	(判読不能)	803×1723	
12	国幣小社	古備津彦神社渡殿復旧設計図 天井見上図 平面図	里址	09/1	昭和9年6月	#	730×1070	向拝含、2分割
13	国幣小社	吉備津彦神社渡殿復旧設計図 拝殿 正面	中中	1/20	昭和9年6月	角南・上田・齊藤・山内	802×1714	
14	国幣小社	吉備津彦神社渡殿復旧設計図 拝殿 縦断	縦断	1/20	昭和9年6月	(判読不能)	801×1713	
15	国幣小社	吉備津彦神社渡殿復旧設計図 拝殿、祭文殿 釣殿、軒廊 側面	立面	1/20	昭和9年6月	角南・上田・齊藤・山内	800× (2105)	左端欠損
16	国幣小社	吉備津彦神社渡殿復旧設計図 拝殿、祭文殿 釣殿、軒廊 側面	立面	1/20	昭和9年6月	角南・上田・齊藤・山内	800× (2057)	右端欠損
17	国幣小社	吉備津彦神社神饌所復旧設計図 正面	立面	1/20	昭和8年2月	角南・上田・齊藤・山内	550×1008	
18	国幣小社	吉備津彦神社神饌所復旧設計図 平面	平面	1/20	昭和8年2月	角南・上田・齊藤・山内	795×1075	やや破れ
19	国幣小社	吉備津彦神社神饌所復旧設計図 縦断面	維断面	1/20	昭和8年2月	角南・上田・齊藤・山内	545×975	
20	国幣小社	吉備津彦神社神饌所復旧設計図 横断面	横断面	1/20	昭和8年	角南・上田	547×965	
21	国幣小社	吉備津彦神社神饌所復旧設計図 東側面	立面	1/20	昭和8年2月	角南・上田・山内	548×988	
22	国幣小社	吉備津彦神社神饌所復旧設計図 西側面	立面	1/20	昭和8年2月	角南・上田・齊藤・山内	540 × 968	
23	国幣小社	吉備津彦神社神饌所復旧設計図 背面	東立	1/20	昭和8年2月	角南・上田・齊藤・山内	545×942	

※図面サイズの括弧内数値は現存長を示す

[3]

1 種 別 史跡

2 名称及び員数 緑山古墳群 6号墳・7号墳・8号墳 3基

3 所 在 地 総社市上林

4 所 有 者 個人

5 年 代 6世紀中葉から後半

6 説 明

緑山古墳群は総社市上林に所在し、三須丘陵の北西、標高約45mの緑山一帯に位置する。6世紀中葉から後半にかけて造営された群集墳で、現在19基が確認されている。そのうち17基は横穴式石室を埋葬施設とし、18基は円墳である。そのなかでも6・7・8号墳は墳丘の保存状態が良く、丘陵の頂部に3基が並んで所在する。現状は山林である。

昭和57年から59年にかけて、岡山大学考古学研究室を中心とする緑山古墳 群調査団により、1・4・6・7・8号墳の測量調査と一部発掘調査が実施され、 この地域の横穴式石室の編年研究が大きく進んだ。特に6・7・8号墳は、吉備 中枢地域に所在する横穴式石室の発展過程を示すものとして高く評価されている。 また、令和2年度には岡山県教育委員会によるこうもり塚古墳調査事業の一環と して、6・7・8号墳の再測量が実施されるとともに三須丘陵西半部の赤色立体 図も作成され、周辺の地形を含めた古墳群の検討が可能となった。

6号墳は直径15.6m、高さ2.4mを測る円墳で、両袖式の横穴式石室を内部主体とする。石室全長は現存長で6.2m、玄室は長さ3.7m、幅2.5mである。玄室の奥壁は横方向に長い小振りの石材を6段積み上げ、左右両側壁も基底石を含めて5、6段積み上げる。玄室形態には畿内地域の影響が認められる一方、玄門に立柱石や梱石を配置する点などは九州の影響とみられ、吉備における横穴式石室導入期の地域間交流の様相を考える上で貴重である。

7号墳は直径約30.0m、高さ4.5mを測る円墳で、片袖式の横穴式石室を内部主体とする。石室全長は現存長で10.3m、玄室は長さ5.4m、幅2.6mである。玄室奥壁の基底石は幅2.1mの大型石材と細長い石材の2石で構成され、その上部に3、4段の石材を積み上げている。玄門の袖石は現状で2段確認でき、その上に楣石を架構する。楣石が羨道天井より一段下がり、袖石が羨道内側に突出しない玄門構造に吉備地域における地域色の発現が認められる点は、奥壁石材の大型化と合わせて、石室の変遷を考える上で重要である。

8号墳は群中最大規模の円墳で、直径約33.0m、高さ6.0mである。片袖式の横穴式石室を内部主体とし、石室全長は現存長で15.2m、玄室は長さ7.

0m、幅2.9mである。玄室奥壁は3段で構成されている。楣石は幅1.5m 以上、高さ1.5m以上の大型の石材を使用している。玄室の規模及び使用石材 は、7号墳からさらに大型化している。

緑山6・7・8号墳は、石室の形態や規模、使用石材の大型化、出土遺物などの様相から、6世紀中葉から後半の間に6号墳、7号墳、8号墳の順に築かれたものと考えられる。これら3基の古墳は、横穴式石室という新しい埋葬方式が当地域に普及、定着する時期に造営されたものであり、その石室には畿内や九州など他地域に由来する特徴が見られるほか、当地域独自の地域色の発現も認められる。また、本古墳群の南東約1.3kmに所在する史跡こうもり塚古墳は、全国でも屈指の規模の横穴式石室(全長19.9m)を有する前方後円墳で、石室が大型化した緑山8号墳から直接首長系譜がつながる可能性をもつ。本古墳群は吉備中枢域における首長墓群の形成過程や、その背景となる他地域との関係などを研究する上で欠くことのできない古墳群であり、その学術的価値は高い。

参考文献

岡山県教育委員会(2024) 『史跡 こうもり塚古墳 「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業に伴う保存活用総合調査』

 $\begin{bmatrix} 4 \end{bmatrix}$

1 種 別 名勝

2 名 称 龍城院庭園

3 所 在 地 浅口市寄島町

4 所 有 者 (宗) 龍城院

5 年 代 江戸時代

6 説 明

福井山壽福寺龍城院は竜王山(標高289m)南西の福井山(標高175m)南中腹に位置する天台宗寺院である。寺伝によると、龍城院は承和5(838)年に最澄の高弟の一人である慈覚大師円仁が開基したと伝えられる。寛文6(1666)年に岡山藩主池田光政による社寺整理で周辺12坊が統合され、現在の地に定められた。現存する本堂は元禄2(1689)年及び宝暦9(1759)年再建で、庫裏は安永4(1775)年の再建である。庭園は本堂の北側背後に位置し、隣接する庫裏の北西側に当たる。江戸時代の伽藍の再建・整備に伴い、現在の形に整えられたと考えられる。

庭園の様式は池泉座観式で、視点場は庫裏の北西部の書院にある。斜面裾部に造成された護岸石組の池には中島が1島浮かび、背後の福井山を借景として取り込む。また、敷地造成の際に削り出した斜面地に主景となる二段落ちの滝を築く。現在、滝からは水が流れ落ちているが、これは後世の改修と推測され、当初はその上部の立石を含めた三段落ちの枯滝であったと考える。さらに、池に面した斜面裾付近には幅広く豪壮な枯滝を造成し、その足元に池が広がる情景が造出されている。

敷地造成により現出した地形を巧みに活かして築造された幅広く豪壮な枯滝は、 県内でも希少な事例として貴重である。岡山県の庭園文化及びその築造技術を考 えるうえで重要と高く評価できる。

令和6年3月12日高梁市指定

[5]

1 種 別 名勝

2 名 勝 夫婦岩

3 所 在 地 高梁市成羽町布寄

4 所 有 者 国司神社

5 説 明

夫婦岩は、高梁市街地から西に約15km離れた成羽町布寄に所在する。高梁市域を北西から南東に貫流する成羽川中流左岸の台地上に並び立つ二つの巨岩で、東(台地)側が高さ約12m、西(谷)側が高さ約16mである。地元では夫(東側)と子を抱く妻(西側)に見立てて夫婦岩と呼んでいる。

夫婦岩周辺は、古生代石炭紀からペルム紀にかけての石灰岩地帯で、西に細く伸びた尾根部が節理に沿って縦方向に侵食された結果、複数の塔状地形が形成され、不安定となった岩塊は崩落し、崩落を免れた岩塊が柱状に残ったものが夫婦岩と考えられる。夫婦岩は吉備高原の隆起と節理に富んだ石灰岩の風化と侵食により形成された自然の貴重な造形物である。

これら二つの巨岩は、川面からの比高約250mの断崖上に屹立し、周辺の景観を見下ろすその雄姿が存在感を示す。また、夫婦岩を望む展望は、成羽川の渓谷美とその両岸に広がる布寄・布賀の山並みと相俟って壮大な眺望景観を形成している。

地域では夫婦岩にまつわる伝承があり、古くから夫婦岩は夫婦円満・家内安全等を祈願する対象とされてきた。平成17(2005)年には「高梁夫婦岩の会」が組織され、展望台や遊歩道を整備し、春には菜の花祭り、夏にはひまわり祭りのイベントを開催するなど、夫婦岩の保存と活用に積極的に取り組んできた。

夫婦岩は、自然の造りだした無二の造形物であり、地域の特徴ある地勢的な景観の中にあって壮大な眺望景観を形成し、地元でも古くから価値ある対象として認められてきた。地域の歴史や生活にも関わり、価値ある名勝として貴重である。

〈参考資料1〉

岡山県指定重要文化財等件数表

		区 分	既指定件数	指定後の件数
		絵画	26	26
	美	彫 刻	68	68
重	術	工芸品	89	90
要文	ェ	書跡・典籍	7	7
化	芸	古 文 書	11	11
財	品	考 古 資 料	17	17
		歴 史 資 料	9	9
	建造物	建造物	124	125
=	2	史跡	61	62
ź.	意	名勝	6	8
特	勿	天 然 記 念 物	37	37
	重	要無形文化財	5(13人・1団体)	5 (13人・1団体)
文	重要	重要有形民俗文化財	12	12
L 財	重 要 民 俗	重要無形民俗文化財	35	35
	選	定保存技術	0	0
		슴 計	507	512

〈参考資料2〉

県指定重要文化財 [工芸品]

1 太刀正恒(古青江)	岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	昭和32年11月5日
2 太刀 幸景	岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	昭和46年6月18日
3 備前焼壺	岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	昭和31年9月25日
4 木造彩色菊牡丹透華鬘 [二枚]	岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	平成3年4月5日
5 紫糸威腹巻	岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	平成3年4月5日
6 備前焼四耳壺	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	岡山後楽園 (岡山市北区後楽園)	昭和34年3月27日
7 刀 銘備前国長船住人横山上野大掾藤原祐定 奉寄 進於当国一宮大明神者也 寛文六丙午年正月十九日	岡山市北区後楽園岡山県立博物館保管	吉備津彦神社 (岡山市北区一宮)	平成31年3月8日
8 刀 備州金次	岡山市中区国富	個人 (東京都)	昭和32年5月13日
9 恒次太刀	岡山市北区丸の内	林原美術館	昭和30年5月17日
0 古備前鐘状水指	岡山市北区丸の内	林原美術館	昭和31年4月1日
1 刀 無銘(青江物)	岡山市北区丸の内	林原美術館	昭和32年11月5日
2 池田忠雄墓所鉄灯台	岡山市南区浦安本町	清泰院	昭和34年3月27日
3 備前国長船住左近将監長光太刀	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人(岡山市)	昭和31年4月1日
4 真葛作楠渓下絵染付手付樽	岡山市北区天神町 県立美術館寄託	個人 (岡山市)	昭和32年11月5日
5 短刀 備中国住次吉	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人 (岡山市)	昭和34年1月13日
6 刀 長曾禰与里入道虎徹	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人 (岡山市)	昭和35年4月26日
7 樋蒔絵衛府太刀拵 附 太刀無銘	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人	昭和39年12月2日
8 梵鐘	岡山市北区目応寺	日応寺	昭和34年3月27日
9 五鈷杵・五鈷鈴	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	金山寺	平成4年4月3日
0 行道面[十一面]	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	吉備津神社 (岡山市北区吉備津)	昭和34年3月27日
1 大太刀 銘 備州長船秀幸	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	吉備津神社 (岡山市北区吉備津)	昭和57年4月9日
2 大太刀 法光	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	吉備津神社 (岡山市北区吉備津)	平成6年4月5日
3 木瀬浄阿彌作円鏡	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	章守八幡宮 (岡山市北区下足守)	昭和34年3月27日
4 梵鐘	岡山市北区下高田	上願寺	昭和34年3月27日
5 信国太刀	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人 (東京都町田市)	昭和30年5月17日
6刀 伝 雲重	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	蜂谷工業株式会社 (岡山市)	昭和57年4月9日
7 梵鐘	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	妙覚寺 (岡山市北区御津金	昭和34年3月27日
8 銅板法華経	岡山市北区御津金川	妙覚寺	昭和37年4月3日
9 太刀 銘雲生	岡山市北区大供	岡山市	昭和62年4月3日
0 太刀 無銘 (伝福岡一文字)	岡山市北区奥田	個人	昭和46年6月18日
1 色々威腹巻	岡山市北区丸の内 林原美術館	林原美術館	平成29年3月7日
2 藍韋威胸緋腹巻	一	林原美術館	平成29年3月7日
3 鉄黒漆阿古陀形五十八間総覆輪筋兜	一	林原美術館	平成29年3月7日
4 太刀 銘 備中国万寿庄住左兵衛尉恒次 元徳二年 十月日 附 黒漆塗鞘打刀拵 一口・延宝八年本阿	一	ナガセヴィータ株式会 社	令和2年3月13日

35 黒漆塗黒糸威菱綴桶側二枚胴具足	岡山市北区丸の内 林原美術館	林原美術館	令和7年3月中旬(予定)
36 三角縁二神四獣鏡 (伝 吉備津神社付近出土)	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人(倉敷市林)	昭和32年5月13日
37 宇野津焼染付鉢	倉敷市林	個人	昭和34年3月27日
38 唐櫃	岡山市北区後楽園 県立博物館	岡山県立博物館	平成2年4月3日
39 短刀 銘信国 附葵紋合口拵	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	五流尊瀧院 (倉敷市林)	昭和36年7月25日
40 梵鐘	倉敷市林	五流尊瀧院	昭和49年5月31日
41 太刀 真依	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人 (倉敷市玉島)	昭和32年5月13日
42 大太刀 銘義隆	倉敷市玉島中央町	羽黒神社	平成9年3月25日
43 梵鐘	倉敷市児島由加	蓮台寺	昭和34年3月27日
44 短刀 守次	倉敷市老松町	個人	昭和46年6月18日
45 短刀 助光	倉敷市美和	個人	昭和46年6月18日
46 太刀 銘宗貞	岡山市北区後楽園	個人	昭和55年4月8日
47 刀 銘 藤原直胤(花押)天保八年一陽来復日	県立博物館寄託 岡山市北区後楽園	(倉敷市平田) 個人	平成15年3月11日
48 梵鐘	県立博物館寄託 津山市小田中	(津山市本町) 安国寺	平成17年3月11日
49 朱漆塗本小札啄木糸威胴丸具足	津山市山下	個人	令和4年3月11日
50 脇差 盛光	津山郷土博物館寄託 玉野市田井	個人	昭和35年8月23日
50 協定 盛光 51 脇差 備前長船康光	玉野市田井	個人	昭和38年3月30日
52 梵鐘	笠岡市走出	持宝院	昭和34年3月27日
	笠岡市笠岡	遍照寺	昭和34年3月27日
53 梵鐘			
54 短刀 貞次	笠岡市笠岡	個人	昭和46年6月18日
55 梵鐘	井原市高屋町	高山寺	昭和34年3月27日
56 梵鐘	総社市井尻野	宝福寺	昭和34年3月27日
57 宝剣 銘国重[三口] 宝剣拵[三口]	高梁市原田北町 高梁市歴史美術館	高梁市	平成8年4月2日
58 日の丸金箔押紺糸威二枚胴具足	高梁市原田北町 高梁市歴史美術館	高梁市	平成10年3月24日
59 赤黒片身替白糸威二枚胴具足	高梁市原田北町 高梁市歴史美術館	高梁市	平成10年3月24日
60 銅鰐口	高梁市備中町西油野	観音寺	昭和41年4月27日
61 金銅阿弥陀三尊懸仏	高梁市原田北町 高梁市歴史美術館寄託	長建寺	平成29年3月7日
62 備前焼茶壺	備前市浦伊部	個人	昭和31年9月25日
63 備前焼欄間獅子[一対]	備前市伊部 備前市立吉永美術館	長法寺 (備前市伊部)	昭和34年3月27日
64 梵鐘	備前市浦伊部	妙圀寺	昭和34年3月27日
65 備前焼狛犬[一対]	備前市伊部	天神社 (備前古木公)	昭和53年4月14日
66 剣 銘祐定	備前市立吉永美術館 岡山市北区後楽園	(備前市木谷) 岡山県立博物館	昭和55年4月8日
67 太刀 無銘(伝国俊)	県立博物館 備前市三石	個人	昭和39年12月2日
68 磬	瀬戸内市牛窓町千手	弘法寺	昭和34年3月27日
69 黒韋威鎧 大袖付 附 鍬形	岡山市北区後楽園	五香宮	昭和63年4月1日
70 太鼓形酒筒(太鼓樽)	県立博物館寄託 瀬戸内市牛窓町千手	(瀬戸内市牛窓町牛 遍明院	平成10年3月24日
71 馬具 [四懸]	岡山市北区後楽園	五香宮	平成10年3月24日
72 静円寺永正銘備前焼花瓶	県立博物館寄託 岡山市北区後楽園	(瀬戸内市牛窓町牛	昭和31年4月1日
・2 Bt.l 1 /V TT-私口/出日/12/12/17	県立博物館寄託	(瀬戸内市邑久町本	B 100 1 +24 + F

73 静円寺永禄銘備前焼花瓶	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	静円寺 (瀬戸内市邑久町本	昭和31年4月1日
74 梵鐘	瀬戸内市邑久町北島	餘慶寺	昭和34年3月27日
75 杏葉形 轡 [一具]	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	豊原北島神社 (瀬戸内市邑久町北	平成12年3月28日
76 桃形 轡 [一具]	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	豊原北島神社 (瀬戸内市邑久町北	平成12年3月28日
77 紅糸素懸威銀箔押二枚胴具足	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	大賀島寺 (瀬戸内市邑久町豊	平成6年4月5日
78 清水寺鰐口	真庭市関	清水寺	昭和31年4月1日
79 若代出土備前焼壺[十八個] 附 須恵器かめ、瀬戸瓶子	真庭市勝山 真庭市勝山郷土資料館	真庭市	昭和44年7月4日
80 備前燒薄端花生	和気町和気	個人	昭和34年3月27日
81 陣太鼓	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	安養寺 (和気町泉)	平成15年3月11日
82 長谷部国重 短刀	矢掛町矢掛	個人	昭和30年5月17日
83 金銅板貼山伏笈	鏡野町寺和田	円通寺	昭和60年4月2日
84 梵鐘	鏡野町馬場	小田草神社	平成18年3月17日
85 鰐口	美咲町両山寺	両山寺	昭和34年3月27日
86 妙本寺出土備前焼壺・大甕 [三十七個] 附 瀬戸褐釉印花文瓶子	吉備中央町北	妙本寺	平成10年3月24日
87 梵鐘	吉備中央町湯山	清水寺	昭和34年3月27日
88 短刀 繁慶	東京都小金井市	個人 (オーストラリ ア)	昭和35年8月23日
89 刀 無銘 伝備前国長船近景	(所在不明)		昭和32年11月5日
90 太刀 銘宗義造	(所在不明)		昭和51年3月27日

県指定重要文化財 [建造物]

	名 称 [員 数]	— 所在地	所有者又は管理者	指定年月日
	1 今村宮本殿	岡山市北区今	今村宮	昭和30年3月18日
	2 安住院多宝塔	岡山市中区国富	安住院	昭和31年4月1日
	3 安住院仁王門	岡山市中区国富	安住院	昭和31年4月1日
	4 安住院本堂 附 慶長六年棟札	岡山市中区国富	安住院	平成30年3月6日
	5 玉井宮東照宮本殿 附 玉垣	岡山市中区東山	玉井宮東照宮	平成12年3月28日
	6 金山寺護摩堂	岡山市北区金山寺	金山寺	昭和31年4月1日
	7 金山寺三重塔	岡山市北区金山寺	金山寺	平成4年4月3日
	8 旧足守藩侍屋敷遺構 [三棟]	岡山市北区足守	岡山市	昭和31年4月1日
	9 大光寺霊廟	岡山市北区上足守	大光寺	昭和52年4月8日
	10 池田忠継廟 附 棟札 [三枚] 、守護札 [四枚]	岡山市南区浦安本町	清泰院	昭和34年1月13日 (追加指定 昭和54年3月27
	11 吉備津彦神社本殿	岡山市北区一宮	吉備津彦神社	昭和43年4月19日
2	12 吉備津彦神社渡殿・釣殿・祭文殿・軒廊・拝殿・ 神饌所 [6 棟] 附 設計図 [二十三枚]	岡山市北区一宮	吉備津彦神社	令和7年3月中旬(予定)
	13 吉備津神社回廊	岡山市北区吉備津	吉備津神社	昭和51年3月27日
	14 日応寺番神堂	岡山市北区日応寺	日応寺	昭和54年5月18日
	15 西大寺三重塔	岡山市東区西大寺中	西大寺	平成3年4月5日
	16 大光院の康永四年法華題目石	岡山市中区円山	大光院	昭和30年7月19日
	17 石造宝塔	岡山市東区吉井	地区	昭和34年3月27日

18 松山長昌寺地蔵石仏	岡山市北区大安寺地蔵	地区	昭和39年5月6日
19 石造鳥居	岡山市東区宍甘	往来神社	平成2年4月3日
20 石造七重層塔	岡山市東区西大寺中	西大寺	平成2年4月3日
21 石造地蔵菩薩立像	岡山市北区建部町富沢	地区	平成6年4月5日
22 児島湾開墾第一区の樋門群		高崎土地改良区・岡山	平成20年3月7日
23 如法寺無量寿院本堂 附 明和五年棟札 [一枚]	崎・西紅陽台 岡山市東区広谷	無量寿院	平成26年3月4日
24 蓮台寺客殿 附 釣屋、御成門、浴室、手洗所	倉敷市児島由加	蓮台寺	昭和31年4月1日
25 蓮台寺多宝塔	倉敷市児島由加	蓮台寺	昭和31年4月1日
26 由加神社本殿	倉敷市児島由加	由加神社	昭和36年7月25日
27 熊野神社本殿[五棟]	倉敷市林	熊野神社	昭和43年4月19日
28 尊瀧院ほか四カ院三重塔	倉敷市林	尊瀧院ほか	昭和49年5月31日
29 清田八幡神社本殿	倉敷市曽原	清田八幡神社	昭和35年8月23日
30 石造熊野道の延命地蔵坐像	倉敷市福江	宝寿院	昭和31年4月1日
31 石造藤戸寺五重塔婆	倉敷市藤戸町藤戸	藤戸寺	昭和33年4月10日
32 石造総願寺跡宝塔	倉敷市児島下之町	倉敷市	昭和33年4月10日
33 石造地蔵菩薩立像	倉敷市大畠	倉敷市	昭和34年1月13日
34 満願寺宝篋印塔	倉敷市真備町辻田	森泉寺	昭和31年4月1日
35 石造線刻阿弥陀如来坐像	倉敷市真備町尾崎東谷	地区	昭和34年9月15日
36 鶴山八幡宮拝殿、釣殿及び神供所並びに末社薬祖神 社社殿	津山市山北	鶴山八幡宮	昭和31年4月1日
37 徳守神社社殿[三棟]	津山市宮脇町	徳守神社	昭和31年4月1日
38 高野神社本殿	津山市二宮	高野神社	昭和58年4月8日
39 妙法寺本堂	津山市西寺町	妙法寺	平成13年3月23日
40 愛染寺鐘楼門及び仁王堂	津山市西寺町	爱染寺	平成18年3月17日
41 石造無縫塔 石造宝篋印塔	津山市加茂町塔中	個人	昭和34年3月27日
42 新野東の宝篋印塔 [二基]	津山市新野東	地区	昭和51年3月27日
43 本源寺津山藩主森家一門墓[七基] 附 参道、石 灯籠〔二基〕	津山市小田中	本源寺	平成21年3月10日 (指定名称等変更 平成25年8
44 泰安寺本堂及び表門 附 寛永二十一年本堂建立棟 札、宝暦六年表門修理棟札 各1枚	津山市西寺町	泰安寺	月7日) 平成25年3月1日
45 旧妹尾銀行林田支店 本館・倉庫・金庫・門及び塀 [三棟一基]	津山市川崎	津山市	令和6年3月15日
46 石造墓塔	玉野市後閑	地区	昭和34年3月27日
47 秀天橋	玉野市槌ヶ原	玉野市	平成20年3月7日
48 神護寺本堂 附 棟札 [二枚]	笠岡市甲弩	来迎院	平成13年3月23日
49 菅原神社眼鏡橋 附 眼鏡橋碑	笠岡市吉浜	菅原神社	平成13年3月23日
50 春日神社石鳥居	笠岡市小平井	春日神社	昭和35年8月23日
51 沢津丸の宝塔	笠岡市真鍋島	個人	昭和51年3月27日
52 善福寺釈迦堂 附 棟札 [一枚]	井原市井原町	善福寺	平成14年3月12日
53 備中国分寺跡建物	総社市上林	国分寺	昭和49年5月31日
庫裏、裏書院、経蔵 [三棟] 54 岩屋の皇の墓	総社市奥坂	観音院	昭和30年7月19日

	総社市下原	総社市	昭和34年3月27日
56 大覚大僧正題目石	総社市清音軽部	大覚寺	昭和34年1月13日
57 薬師院本堂	高梁市上谷町	薬師院	昭和34年3月27日
58 松連寺本堂天井と船戸	高梁市上谷町	松連寺	昭和34年3月27日
59 恵堂地蔵	高梁市落合町阿部	高梁市	昭和33年4月10日
60 石造宝塔	高梁市巨瀬町	祇園寺	昭和34年3月27日
61 石造遣迎二尊板碑	高梁市有漢町有漢	個人	平成10年3月24日
62 旧吹屋小学校校舎 本館・東校舎・東廊下・西校舎・西廊下 [五棟]	高梁市成羽町吹屋	高梁市	平成15年3月11日 (追加指定 平成16年3月12日) (名称変更 平成25年3月1日)
63 石造龍泉寺方柱碑	高梁市成羽町下原	龍泉寺	昭和33年4月10日
64 穴門山神社本殿及び拝殿 附 棟札 [六枚]	高粱市川上町高山市	穴門山神社	昭和52年4月8日 (追加指定 平成7年4月7日) (追加指定 平成19年3月16日)
65 石造方柱碑	高梁市備中町布賀	個人	昭和41年4月27日
66 三尾寺本堂	新見市豊永赤馬	三尾寺	昭和34年1月13日
67 石造宝台寺五輪塔	新見市金谷	宝台寺	昭和33年4月10日
68 石造延命地蔵(朝間地蔵)	新見市正田	地区	昭和34年3月27日
69 石造延命地蔵(昼間地蔵)	新見市正田	地区	昭和34年3月27日
70 石造延命地蔵	新見市唐松	個人	昭和34年3月27日
71 石造延命地蔵菩薩立像 (夕間地蔵)	新見市西方	地区	昭和60年4月2日
72 石造延命地蔵菩薩坐像	新見市金谷	青龍寺	昭和60年4月2日
73 六角石幢	新見市神郷下神代	神応寺	昭和34年3月27日
74 石造薬師三尊像	新見市神郷高瀬	地区	昭和40年2月24日
75 荒戸神社本殿	新見市哲多町田淵	荒戸神社	昭和62年4月3日
76 矢田石仏	新見市哲西町矢田	新見市	昭和33年4月10日
77 大瀧山福生寺本堂	備前市大内	大瀧山実相院・福壽 院・西法院	平成15年3月11日
78 大瀧山福生寺仁王門 附 元和九年銘施主札 [三 枚]	備前市大内	大瀧山実相院・福壽 院・西法院	平成18年3月17日
79 正楽寺山門 附 文化十四年棟札	備前市蕃山	千手院	平成29年3月7日
80 本蓮寺三重塔	瀬戸内市牛窓町牛窓	本蓮寺	昭和55年4月8日
81 本蓮寺祖師堂	瀬戸内市牛窓町牛窓	本蓮寺	昭和57年4月9日
82 弘法寺山門	瀬戸内市牛窓町千手	弘法寺	平成7年4月7日
83 横尾山静円寺本堂	瀬戸内市邑久町本庄	静円寺	昭和31年4月1日
84 静円寺塔婆(多宝塔) 附 棟札	瀬戸内市邑久町本庄	静円寺	昭和35年8月23日
85 餘慶寺三重塔 附 棟札 [四枚]	瀬戸内市邑久町北島	餘慶寺	平成14年3月12日
86 石造方柱碑	赤磐市中島	千光寺	昭和34年3月27日
87 田原用水水路橋(石の懸樋)	赤磐市徳富	赤磐市	平成5年4月23日
88 石造十三重層塔	赤磐市石蓮寺	地区	昭和34年3月27日
89 宗形神社鳥居	赤磐市是里	宗形神社	平成21年3月10日
90 木山神社本殿	真庭市木山	木山神社	昭和32年11月 5日
91 宇南寺本堂	真庭市美甘	宇南寺	昭和34年1月13日

92 吉森の石造五輪塔 [二基]	真庭市蒜山上長田	個人	昭和59年4月10日
93 石造宝篋印塔	美作市沢田	個人	昭和34年3月27日
94 石造宝篋印塔	美作市粟野	個人	昭和34年3月27日
95 安蘇の宝篋印塔	美作市安蘇	地区	昭和52年4月8日
96 天石門別神社本殿	美作市滝宮	天石門別神社	平成10年3月24日
97 旧高戸家住宅	浅口市鴨方町鴨方	浅口市	平成10年3月24日
98 石造地蔵菩薩立像(ゆるぎ堂所在)	浅口市鴨方町本庄	地区	平成10年3月24日
99 石造密厳寺五重層塔	和気町佐伯	本久寺	昭和33年4月10日
100 石造密厳寺九重層塔	和気町佐伯	本久寺	昭和33年4月10日
101 石造五輪塔	和気町田土	長楽寺	昭和34年3月27日
102 本久寺本堂	和気町佐伯	本久寺	昭和34年1月13日
103 福武家住宅主屋・長屋門 [二棟]	矢掛町横谷	個人	平成16年3月12日
104 石造地蔵菩薩立像(吉田の油地蔵)	勝央町東吉田	東光寺	昭和34年1月13日
105 石造無縫塔	奈義町小坂	地区	平成16年3月12日
106 佛教寺鎮守社本殿 附 天保六年棟札	久米南町仏教寺	佛教寺	平成19年3月16日
107 慈眼庵址宝篋印塔	久米南町峠	個人	昭和30年3月18日
108 石造宝篋印塔	久米南町里方	誕生寺	昭和34年3月27日
109 石造五輪塔	久米南町里方	誕生寺	昭和34年3月27日
110 石造宝篋印塔	久米南町仏教寺	佛教寺	昭和34年3月27日
111 石造五智如来坐像 [五躯]	美咲町両山寺	両山寺	昭和40年6月16日
112 本山寺常行堂	美咲町定宗	本山寺	昭和34年3月27日
113 本山寺霊廟 [四棟]	美咲町定宗	本山寺	昭和34年3月27日
114 本山寺長屋	美咲町定宗	本山寺	昭和34年3月27日
115 本山寺仁王門	美咲町定宗	本山寺	昭和34年3月27日
116 石造宝篋印塔	美咲町定宗	本山寺	昭和34年3月27日
117 石造六角型舎利塔	美咲町定宗	本山寺	平成4年4月3日
118 本経寺本堂 附 棟札	美咲町吉ケ原	本経寺	昭和37年4月3日
119 妙本寺本堂	吉備中央町北	妙本寺	昭和31年4月1日
120 吉川八幡宮随神門	吉備中央町吉川	吉川八幡宮	昭和59年4月10日
121 吉川八幡宮拝殿 附 元治元年銘棟札	吉備中央町吉川	吉川八幡宮	平成12年3月28日
122 総社石灯籠	吉備中央町加茂市場	総社宮	昭和33年4月10日
123 石造地蔵菩薩立像	吉備中央町加茂市場	総社宮	昭和34年1月13日
124 石造宝篋印塔	吉備中央町円城	円城寺	昭和34年3月27日
125 清水寺 平清盛供養塔	吉備中央町湯山	清水寺	昭和30年7月19日

県指定記念物 [史跡]

名	所在地	所有者又は管理者	指定年月日
1 撫川城跡(芝場城跡)	岡山市北区撫川	岡山市他	昭和32年5月13日
2 備前国庁跡	岡山市中区国府市場	岡山市	昭和34年3月27日

3 浄土寺	岡山市中区湯迫	浄土寺	昭和34年3月27日
4 倉安川吉井水門	岡山市東区吉井	岡山市	昭和34年3月27日
5 伝賀陽氏館跡	岡山市北区川入	個人	昭和34年3月27日
6 坂古田古墳	岡山市北区平山	岡山県他	昭和34年3月27日
7 緒方洪庵誕生地	岡山市北区足守	岡山市	昭和34年3月27日
8 木下利玄生家	岡山市北区足守	岡山市	昭和34年3月27日
9 藤原成親遺跡(高麗寺山門跡と藤原成親墓地)	岡山市北区吉備津	福田海本部	昭和35年4月26日
10 高松城水攻め鳴谷川遺跡 附 工事奉行の墓	岡山市北区長野	岡山市	昭和39年12月2日
11 犬養家旧宅	岡山市北区川入	岡山県	昭和52年4月8日
12 徳倉城跡	岡山市北区御津河内	岡山市	昭和33年4月10日
13 竹内流古武道発祥の地	岡山市北区建部町角石 谷	個人	昭和51年3月27日
14 松田元成及び大村盛恒墓所	岡山市東区瀬戸町塩納	岡山市	昭和34年3月27日
15 王墓山古墳	倉敷市庄新町	倉敷市	昭和34年3月27日
16 安養寺裏山経塚群	倉敷市浅原	安養寺	昭和35年8月23日
17 下津井城跡	倉敷市下津井、吹上	倉敷市	昭和43年7月23日
18 新熊野山	倉敷市林	熊野神社他	昭和48年5月15日
19 野﨑家旧宅	倉敷市児島味野	(財) 竜王会館	昭和52年4月8日
20 日本キリスト教団天城教会敷地及び教会堂	倉敷市藤戸町天城	天城教会	昭和56年4月7日
21 八高廃寺	倉敷市真備町妹	個人	昭和34年3月27日
22 勝負砂古墳	倉敷市真備町下二万	個人	平成21年3月10日
23 黒宮大塚墳墓群	倉敷市真備町尾崎	熊野神社	令和5年3月14日
24 日上天王山古墳・日上畝山古墳群	津山市日上	個人(地区)他(津山市)	平成12年3月28日
25 久米廃寺跡	津山市宮尾	岡山県・津山市	昭和52年4月8日
26 岩屋城跡	津山市中北上	津山市	昭和62年4月3日
27 矢筈城跡(高山城跡) 附 伝草苅景継墓所	津山市加茂町山下・知 和	津山市ほか	平成18年3月17日
28 津山藩主松平家菩提所泰安寺	津山市西寺町	泰安寺	平成24年3月9日
29 大蔵池南製鉄遺跡	津山市神代	(株) 久米カントリー クラブ	平成28年2月5日
30 沼遺跡	津山市沼ほか	津山市	平成29年3月7日
31 関戸の廃寺跡	笠岡市関戸	笠岡市	昭和38年8月1日
32 興譲館	井原市西江原町	興譲館	昭和34年3月27日
33 秦廃寺	総社市秦	個人	昭和34年3月27日
34 宮山墳墓群 宮山天望古墳	総社市三輪	百射山神社	昭和39年5月6日(追加指定 昭和39年12月2日)
35 宝福寺	総社市井尻野	宝福寺、総社市	平成12年3月28日
36 江崎古墳	総社市上林	総社市他	昭和61年4月4日
37 栢寺廃寺跡	総社市南溝手	総社市	昭和62年4月3日
38 一丁块古墳	総社市秦	秦三部落自治会	平成28年2月5日
39 緑山古墳群 6号墳・7号墳・8号墳	総社市上林	宗教法人麻佐岐神社 個人	令和7年3月中旬(予定)
40 順正寮跡	高梁市頼久寺町	学校法人高梁学園	昭和34年3月27日

41 高梁基督教会堂	高梁市柿木町	高梁基督教会	昭和34年3月27日
42 備中松山城御根小屋跡	高梁市内山下	岡山県・高梁市	平成3年4月5日
43 山﨑家墓所	高梁市成羽町下原	個人	平成11年3月16日
44 野田山遺跡	新見市哲多町成松	新見市	昭和32年5月13日
45 方谷庵	新見市大佐小南	金剛寺	昭和40年2月24日
46 閑谷焼窯跡	備前市閑谷	個人	昭和34年3月27日
47 三石城跡	備前市三石	備前市	昭和54年3月27日
48 鹿歩山古墳	瀬戸内市牛窓町鹿忍	個人	昭和34年3月27日
49 二塚山古墳	瀬戸内市牛窓町鹿忍	個人	昭和34年3月27日
50 花光寺山古墳	瀬戸内市長船町服部	地区	昭和34年3月27日
51 築山古墳	瀬戸内市長船町西須恵	個人	昭和34年3月27日
52 南方前池遺跡	赤磐市南方	赤磐市	昭和32年5月13日
53 川東車塚古墳	真庭市田原	個人	平成14年3月12日
54 伝宮本武蔵宅跡	美作市宮本	個人	昭和34年3月27日
55 土居一里塚	美作市土居	地区	昭和47年4月21日
56 天神山城跡 附 根小屋跡、岡本屋敷及び木戸館、 伝浦上与次郎墓	和気町田土、岩戸	和気町	昭和57年4月9日
57 田原井堰跡 附 田原用水路一部、百間の石樋、切 抜き	和気町田原 赤磐市徳富 岡山市東区瀬戸町森末	田原用水組合	昭和34年3月27日 (一部解除、名称変更 平成5 年4月23日)
58 鍛冶屋谷たたら遺跡 附 供養塔 [二基]	鏡野町富西谷	鏡野町	昭和58年4月8日
59 恩原遺跡群	鏡野町上齋原	鏡野町	平成22年3月12日
60 法然上人誕生地	久米南町里方	誕生寺	昭和34年3月27日
61 唐臼墳墓群	美咲町打穴西	地区 (美咲町)	昭和63年4月1日
62 月の輪古墳	美咲町飯岡	美咲町	昭和34年9月15日

県指定記念物 [名勝]

	名称	所在地	所有者又は管理者	指定年月日
	1 近水園	岡山市北区足守	岡山市	昭和34年3月27日
	2 円通寺公園	倉敷市玉島柏島	円通寺	昭和34年 3月27日 (追加指定 平成23年3月4日)
	3 道祖渓	井原市西江原町	井原市	昭和30年7月19日
	4 天神峡	井原市芳井町吉井	井原市	昭和31年4月1日
	5 弥高山	高梁市川上町高山	高梁市	昭和32年5月13日
5	6 夫婦岩	高梁市成羽町布寄	国司神社	令和7年3月中旬(予定)
4	8 龍城院庭園	浅口市寄島町	龍城院	令和7年3月中旬(予定)
	7 大通寺庭園	矢掛町小林	大通寺	平成13年3月23日

【1 黒漆塗黒糸威菱綴桶側二枚胴具足】

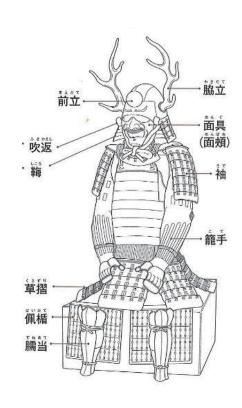
- ・当世具足:戦国期に、組織戦や槍と鉄砲に対抗するために、胴丸を原型として誕生。 兜、胴、面具、籠手、袖、佩楯、臑当を装備して全身を守り、背中に旗を 立てる装置を備える。「当世=今風、具足=備わり足る」を意味する。
- 菱 綴: 2本の威毛を札頭で×字に交差させて綴じる。一般的に素懸威と一緒に用いられることが多いのが特徴で、威毛の節約と装飾性を兼ねる。
- •頭形兜: 兜鉢(兜の本体)の外観が人の頭の形に似ている兜
- ・日根野鞠:戦国時代から安土桃山時代の武将で美濃本田城主日根野備中 守弘就(ひろなり)の考案とされる。両側部分が肩に沿って えぐられて後部が垂れる形。
- 大 鎧: 騎射戦に特化した甲冑として平安時代後期に誕生。兜、胴、大袖で構成。
- ・板 札: 小札を何十枚と綴り合わせて制作する一枚の小札板に変わり、鉄や皮で作られた1枚の板。これにより作業が簡略化され、大量生産が可能になった。
- 毛引威: 小札1枚ごとに1筋の威毛が通り、小札間に隙間無く威毛が並ぶ手法。
- ・ 小 鰭:肩を守る小さな防具。
- ・ 両乳鐶: 両胸にある二つの鐶の総称。
- ・ 総角付鐶 : 胴背面に備えられた、総角(十文字の緒)を結び付けるための鐶。
- ・ 瓢籠手: ひょうたん形の座盤を家地(下地)に綴じ付けた籠手。
- 切 鉄:鉄板を切り出して文様を表したもの。主に兜や胴の装飾に用いられる。
- 伊予佩楯: 太ももを守る防具で、本小札を簡略化した伊予札を使用している。
- 調度記:近代池田家政機関が業務を行う際に書き記した家政関係資料。池田家が明治時代にまとめた。
- ・池田輝政(1564~1613):池田光政の祖父。関ヶ原の功績により播磨国姫路城に加増移封され、初代姫路藩主となる。池田家繁栄の基盤を成した。
- ・池田光政(1609~1682): 姫路第2代藩主池田利陸の長男。元和2(1616)年播磨姫路藩主となったが、因幡鳥取32万5千石への転封を経て、 寛永9(1632)年に叔父の岡山藩主池田忠雄が死去し、忠雄の嫡男光 仲が幼少のため備前岡山31万5千石に移封(国替え)となった。

<岡山県下で指定されている甲冑>

種別	名称	所有者	製作時期
国宝	赤韋威鎧 兜、大袖付 附唐櫃	岡山県	平安後期・鎌倉
国指定	紺糸威胴丸 兜、大袖付	林原美術館	南北朝
国指定	藍韋威肩白腹巻(伝足利尊氏奉納)附咽輪	逼明院	室町初期
国指定	色々威甲胄	豊島北島神社	南北朝
県指定	紫糸威腹巻	岡山県	室町
県指定	色々威腹巻	林原美術館	室町
県指定	藍韋威胸緋腹巻	林原美術館	室町後期
県指定	朱漆塗本小札啄木糸威胴丸具足	個人	江戸前期
県指定	日の丸金箔押紺糸威二枚胴具足	高梁市	江戸前期
県指定	赤黒片身替白糸威二枚胴具足	高梁市	江戸前期
県指定	黒韋威鎧 大袖付 附鍬形	五香宮	南北朝
県指定	紅糸素懸威銀箔押二枚胴具足	大賀島寺	戦国

日本の甲冑 略年表





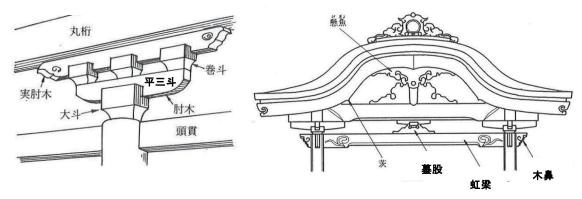
(参考・出典)

岡山県立博物館 2018 『平成三十年度特別展 サムライアーマー甲冑-岡山ゆかりの名品 と変わり兜-』

佐藤寛介 2021 『日本の甲冑』

【2 吉備津彦神社渡殿・釣殿・祭文殿・軒廊・拝殿・神饌所 附設計図】

- 軒 廊:屋根の付いた渡り廊。
- ・神饌所:神に飲食物などを備える場所。
- ・国幣小社: 社格制度による社格。第二次大戦後に廃止された。官社と諸社に大別され、官社には朝廷とゆかりの深い官幣社と諸国の一宮を中心とする国幣社があり、それぞれ大・中・小の格がある。 県下では岡山市吉備津神社が官幣中社、津山市中山神社・阿仁神社が国幣中社、吉備津彦神社が国幣小社であった。
- ・角南 隆(1887-1980): 児島出身。元内務省技師。大正から昭和にかけて 活躍した建築家。神社建築行政の中心的存在。明治神宮をはじめ戦災にあった各地の神社の復興や、伊勢神宮の式年遷宮に携わった。大正後期以降、 本殿・幣殿・拝殿を一体化させた社殿を数多く計画した。
- 亀 腹:建物の基礎部分などをまんじゅう型に造ったもので、漆喰塗が多い。
- ・高 欄:宮殿・神殿などのまわりや、廊下や橋などに取り付けられる欄干(柵)。
- ・ 部 戸:開口部を上下二枚に分割し、上部の戸板を引き上げたり跳ね上げて開閉する形式の戸
- ・中備え:柱頂部で軒桁を支える組物に対し、柱間中間で支える構造部材。装飾的要素が強く、蟇股や間斗束などがある。
- ・ 策 束:間斗束の肩に装飾があるもの。
- ・蛇腹支輪:折り上げ天井や高さの違う桁を連結するために設けられる。曲線の木材 を一定間隔で並べている。
- ・二軒繁(疎)垂木:垂木の出を上下二段に組み合わせた軒の形式。本格的な社寺建築に用いる。垂木の間隔で、繁(しげ)と疎(まばら)がある。
- 腰長押: 柱を水平方向につなぐ構造材。窓下に取り付ける長押が腰長押。
- •向 拝:本殿の前方に張り出した部分。社殿入口の階段上に設けられる場合が多い。
- 壇正積基壇: 均一の大きさで直角に加工した石材を規則的に積み上げた基壇。



(参考・出典)

小林一元・高橋昌巳・宮越喜彦・宮坂公啓編著『木造建築用語辞典』井上書院

【3 緑山古墳群 6号墳・7号墳・8号墳】

- ・横穴式石室: 古墳の側面に入り口を設けた石室。主に古墳時代後期に造られるようになった。県下最古の横穴式石室は総社市千足古墳(5世紀前半)。
- ・こうもり塚古墳: 国指定史跡。6世紀後半に築かれた全長約96mの前方後円墳。 当時の吉備最大規模の前方後円墳。

<横穴式石室の規模比較>

名 称	所在地	石室の長さm	築造時期
五条野丸山古墳	奈良県	約28.4m	6世紀
宮地獄(みやじだけ)古墳	福岡県	約23m	7世紀
こうもり塚古墳	岡山県総社市	約19.9m	6世紀
箭田大塚古墳	岡山県倉敷市	約19.1m	6 世紀
石舞台古墳	奈良県	約19.1m	6~7世紀
牟佐大塚古墳	岡山県岡山市	約18m	7世紀
緑山 8 号墳	岡山県総社市	約15.2m	6 世紀
藤ノ木古墳	奈良県	約14m	6世紀



(出典) 古代吉備文化財センター 2024 『国指定史跡こうもり塚古墳』

【4 龍城院庭園】

- ・ 池泉座観式:池や泉を配し、書院や座敷から観賞する庭園。
- ・ 伽藍: 寺院の主要建物群。
- 庫裏: 仏教寺院における建物の一つ。居住空間を指し、台所を兼ねることもある。
- 枯滝: 水を使わず石の置き方で大自然の滝を表現すること。